

平成22年2月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成21年6月19日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ジーンズメイト

コード番号 7448 URL <http://www.jeansmate.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 福井三紀夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 砂田真一

TEL 03-5738-5555

四半期報告書提出予定日 平成21年7月3日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年2月期第1四半期の業績(平成21年2月21日～平成21年5月20日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年2月期第1四半期	4,037	—	△180	—	△174	—	△177	—
21年2月期第1四半期	4,361	△16.5	△2	—	13	△94.9	△3	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年2月期第1四半期	△16.23	—
21年2月期第1四半期	△0.25	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年2月期第1四半期	15,096	11,829	78.4	1,081.85
21年2月期	14,552	12,143	83.4	1,110.47

(参考) 自己資本 22年2月期第1四半期 11,829百万円 21年2月期 12,143百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年2月期	—	12.50	—	12.50	25.00
22年2月期	—				
22年2月期(予想)		5.00	—	5.00	10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年2月期の業績予想(平成21年2月21日～平成22年2月20日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期累計期間	8,850	△4.5	△40	—	△25	—	△150	—	△12.87
通期	17,900	△3.7	20	△52.5	50	△41.2	△150	—	△12.87

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年2月期第1四半期	12,651,466株	21年2月期	12,651,466株
② 期末自己株式数	22年2月期第1四半期	1,716,590株	21年2月期	1,716,222株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年2月期第1四半期	10,935,044株	21年2月期第1四半期	12,104,776株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

2. 上記に記載した予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化により予想数値と異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期会計期間(平成21年2月21日から平成21年5月20日まで)の経営環境は、世界的な景気後退を背景に、雇用情勢の悪化や個人消費の冷え込みが引き続き見られたことに加え、企業間競争の更なる激化もあり、より一層厳しい経営環境となりました。

こうした経営環境のもと、当社では、「企業収益の回復」、「事業の再構築」を最重要課題とし、販売力ある基幹商品の強化、ジーンズマイスターを軸とした接客対応の向上、業務効率化の推進を目指してまいりました。

商品動向といたしましては、トップスでは、薄手のアウターや羽織物などを中心に春物全般が低迷し、計画を大きく下回りました。また、ボトムスでは、復調の兆しが見えているもののメンズ・レディースともにデニム5ポケットの販売が厳しい状況となりました。

商品部門別では、ボトムス部門の売上高1,408百万円(前年同期比8.7%減)、トップス部門の売上高1,923百万円(前年同期比8.1%減)、小物部門の売上高704百万円(前年同期比2.8%減)となりました。

販売面といたしましては、「生活応援 低価格宣言」といたしまして、全国紙のカラー一面広告やテレビCM、トレンチャンネルにおける交通広告展開などのプロモーションを行い、1,990円ジーンズおよび990円Tシャツの販売をいたしました。その結果、5月度では客数が増加し、既存店で売上高前年比を上回ることができましたが、3月度、4月度の落ち込みをカバーするには至らず、当第1四半期会計期間では前年未達となりました。その他、店舗毎の顧客に向けたメール配信サービスや会員限定の割引クーポンなどお得な情報を配信し、来店促進及び当社企画商品の訴求を図ってまいりました。

これらの販促活動を積極的に行い、売上高の回復を目指してまいりましたが、当事業年度の全社売上高前年比は92.6%、既存店売上高前年比は93.3%と厳しい結果となりました。

当第1四半期会計期間における店舗の出店につきましては、川崎BE店(川崎市川崎区)、清瀬店(東京都清瀬市)の2店を出店いたしました。また、退店につきましては、モリシア津田沼店(千葉県習志野市)、平塚店(神奈川県平塚市)の2店舗を閉店し、当第1四半期会計期間末店舗数は「ジーンズメイト」業態103店舗(うち24時間営業店舗は35店舗)、「ゼロ・グラビティ」業態1店舗の計104店舗体制となりました。

これらの結果、売上高は40億37百万円(前年同期比7.4%減)、営業損失1億80百万円(前年同期は営業損失2百万円)、経常損失1億74百万円(前年同期は経常利益13百万円)、当第1四半期純損失1億77百万円(前年同期は第1四半期純損失3百万円)となりました。

なお、前年同期は参考として記載しております。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ5億44百万円増加し、150億96百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ5億42百万円増加し、89億35百万円となりました。これは主に現金及び預金が16億58百万円減少したものの、有価証券が11億81百万円、商品が9億36百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ1百万円増加し、61億61百万円となりました。これは主に差入保証金が56百万円増加しましたが、減価償却を38百万円計上したことなどによるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ8億57百万円増加し、32億66百万円となりました。流動負債は、前事業年度末に比べ8億57百万円増加し、29億30百万円となりました。これは主に支払信託が1億74百万円減少いたしました。買掛金が9億72百万円増加したことなどによるものであります。

なお、固定負債につきましては、前事業年度末より変動はありませんでした。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ3億13百万円減少し、118億29百万円となりました。これは主に四半期純損失を1億77百万円計上したことや剰余金の配当1億36百万円などによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前事業年度末に比べ16億58百万円減少し、13億87百万円となりました。これは投資活動によるキャッシュ・フローで12億8百万円、営業活動によるキャッシュ・フローで3億29百万円、財務活動によるキャッシュ・フローで1億20百万円がそれぞれ支出となったためであります。また、当第1四半期会計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、3億29百万円となりました。これは純粋な営業活動で使用した資金が3億33百万円、法人税等の支払いが8百万円、利息及び配当金の受取額が12百万円となったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、12億8百万円となりました。これは主に有価証券の取得及び売却に伴う純支出が11億81百万円、有形固定資産の取得による支出が28百万円となったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1億20百万円となりました。これは配当金の支払額が1億20百万円となったためであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

当事業年度の業績予想につきましては、平成21年3月27日公表の数値から変更はありません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 簡便な会計処理

① 棚卸資産の評価方法

当第1四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

②固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

2. 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①四半期財務諸表に関する会計基準の適用

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

②棚卸資産の評価基準及び評価方法の変更

通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、移動平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。

これにより、売上総利益が14百万円減少し、営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失がそれぞれ14百万円増加しております。

(追加情報)

株主優待引当金

将来の株主優待券の利用による費用負担に備えるため、利用実績に基づき将来利用すると見込まれる額を計上しております。

株主優待券にかかる費用は、従来、株主優待券の利用時における売上値引として処理しておりましたが、近年の株主数の増加に伴い金額の重要性が増したことから、当第1四半期会計期間より、利用実績に基づき将来利用すると見込まれる額を株主優待引当金として計上しております。また、株主優待券にかかる費用は、販売促進的な効果も見込まれることから、販売費及び一般管理費として処理しております。

これにより、売上高が19百万円増加し、営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失が34百万円それぞれ増加しております。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	当第1四半期 会計期間末 (平成21年5月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年2月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,393,044	3,051,875
売掛金	225,837	118,369
有価証券	3,323,387	2,141,768
商品	3,417,839	2,481,052
その他	574,931	599,456
流動資産合計	8,935,040	8,392,523
固定資産		
有形固定資産	658,212	658,809
無形固定資産	8,602	9,032
投資その他の資産		
投資有価証券	2,066,731	2,070,736
敷金及び保証金	3,221,826	3,165,686
その他	371,099	420,636
貸倒引当金	△164,900	△164,900
投資その他の資産合計	5,494,757	5,492,159
固定資産合計	6,161,572	6,160,001
資産合計	15,096,612	14,552,525
負債の部		
流動負債		
支払信託	333,859	508,635
買掛金	1,399,817	427,023
賞与引当金	—	70,314
ポイント引当金	246,059	261,159
株主優待引当金	34,819	—
店舗閉鎖損失引当金	45,725	52,702
事業構造改善引当金	27,353	100,836
その他	843,244	652,669
流動負債合計	2,930,879	2,073,341
固定負債		
長期未払金	335,877	335,877
固定負債合計	335,877	335,877
負債合計	3,266,756	2,409,218

(株)ジーンズメイト(7448) 平成22年2月期 第1四半期決算短信(非連結)

(単位:千円)

	当第1四半期 会計期間末 (平成21年5月20日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年2月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,812	2,015,812
資本剰余金	2,125,434	2,125,434
利益剰余金	8,945,746	9,259,964
自己株式	△1,256,710	△1,256,532
株主資本合計	11,830,283	12,144,678
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△426	△1,371
評価・換算差額等合計	△426	△1,371
純資産合計	11,829,856	12,143,306
負債純資産合計	15,096,612	14,552,525

(2) 四半期損益計算書
第1四半期累計期間

(単位:千円)

	当第1四半期累計期間 (自 平成21年2月21日 至 平成21年5月20日)
売上高	4,037,304
売上原価	2,182,032
売上総利益	1,855,271
販売費及び一般管理費	2,035,435
営業損失(△)	△180,164
営業外収益	
有価証券利息	10,193
その他	691
営業外収益合計	10,884
営業外費用	
投資事業組合運用損	4,950
その他	499
営業外費用合計	5,450
経常損失(△)	△174,729
特別利益	
店舗閉鎖損失引当金戻入額	6,850
特別利益合計	6,850
税引前四半期純損失(△)	△167,879
住民税	9,647
四半期純損失(△)	△177,526

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第1四半期累計期間 (自 平成21年2月21日 至 平成21年5月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純損失(△)	△167,879
減価償却費	38,378
賞与引当金の増減額(△は減少)	△70,314
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△15,100
株主優待引当金の増減額(△は減少)	34,819
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△6,977
事業構造改善引当金の増減額(△は減少)	△73,482
受取利息及び受取配当金	△10,206
投資事業組合運用損益(△は益)	4,950
売上債権の増減額(△は増加)	△107,467
たな卸資産の増減額(△は増加)	△936,786
仕入債務の増減額(△は減少)	798,017
その他	178,142
小計	△333,906
利息及び配当金の受取額	12,447
法人税等の支払額	△8,071
営業活動によるキャッシュ・フロー	△329,530
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△6,369,370
有価証券の売却による収入	5,187,751
有形固定資産の取得による支出	△28,046
差入保証金の差入による支出	△61,400
差入保証金の回収による収入	70,138
その他	△7,611
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,208,539
財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得による支出	△177
配当金の支払額	△120,599
財務活動によるキャッシュ・フロー	△120,777
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,658,847
現金及び現金同等物の期首残高	3,045,875
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,387,027

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期損益計算書

前第1四半期累計期間(平成20年2月21日～平成20年5月20日)

	前年同四半期 平成21年2月期 第1四半期	
	金額(千円)	
I 売上高		4,361,178
II 売上原価		2,333,045
売上総利益		2,028,133
III 販売費及び一般管理費		2,030,981
営業損失(△)		△2,848
IV 営業外収益		16,195
V 営業外費用		55
経常利益		13,290
VI 特別利益		474
VII 特別損失		1,571
税引前第1四半期純利益		12,193
法人税、住民税及び事業税	14,875	
法人税等調整額	322	15,198
第1四半期純損失(△)		△3,004

(2) (要約) 四半期キャッシュ・フロー計算書

前第1四半期累計期間(平成20年2月21日～平成20年5月20日)

	前年同四半期 平成21年2月期 第1四半期
	金額(千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	12,193
減価償却費	53,965
減損損失	574
賞与引当金の増加額	81,234
ポイントサービス引当金の減少額	△7,091
退店損失引当金の減少額	△4,454
受取利息及び受取配当金	△14,364
固定資産除却損	996
売上債権の増加額	△91,103
棚卸資産の増加額	△692,573
仕入債務の減少額	649,497
未払消費税等の減少額	△63,747
長期前払費用の取崩額	58,205
長期未払金の減少額	△37,812
その他	△65,508
小計	△119,987
利息及び配当金の受取額	5,009
法人税等の支払額	△25,685
営業活動によるキャッシュ・フロー	△140,664
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△6,000
定期預金の払戻による収入	5,000
有価証券の取得による支出	△7,217,076
有価証券の売却による収入	5,719,376
有形固定資産の取得による支出	△10,985
差入保証金の支出	△32,135
差入保証金の返還による収入	79,096
長期前払費用の支払による支出	△27,627
その他	3,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,486,951
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得による支出	△179
配当金の支払額	△136,342
財務活動によるキャッシュ・フロー	△136,522
IV 現金及び現金同等物の増減額	△1,764,138
V 現金及び現金同等物の期首残高	3,618,301
VI 現金及び現金同等物の第1四半期末残高	1,854,163

6. その他の情報

該当事項はありません。